

胃を切った人の情報紙



ALPHA CLUB

令和元年9月
第437号

■運営委員

上西紀夫
公立昭和病院 院長

梨本 篤
南部郷総合病院 院長

青木照明
東京慈恵会医科大学 客員教授

「胃を切った人 友の会 アルファ・クラブ」は、胃を切った人が自らの努力と工夫で術後の後遺症を克服していくことを支援しています。会員を募集しています。詳しくは、Webで。

胃を切った人 検索
<http://www.alpha-club.jp>

「令和」を担う 若者世代に贈る！

胃がんで亡くなる人をゼロにすることは、かつての胃がん大国・日本の医療界の長年の悲願である。1983年、豪州の医学者J.R. ウォレンとB・マーシャルが「ヘリコクターピロリ」ピロリ菌を発見し、胃炎と胃・十二指腸潰瘍がピロリ菌に感染して発生することを学術誌に報告した(2005年、ノーベル生理学・医学賞受賞)。

この大発見以来、ピロリ菌と胃がんとの関係を示す多くの証拠が集まり、日本人の胃がんのほとんどはピロリ菌に起因することが分かってきたのである。

あるふあ随筆

胃がんゼロ大作戦



鈴木 秀和

現在、日本人の胃がんを「予防」し、かつ日本列島から「撲滅」するには、ピロリ菌の除菌が最も効果が良いと考えられている。除菌を萎縮性胃炎などの前がん状態が生じる前に行えば予防効率は非常に高く、若い時期の除菌は胃がんの予防効果が大きいことが知られている。

一方、除菌の医療体制は整い、2013年から、「ピロリ菌感染胃炎」と診断された人のほぼ全員が保険診療で除菌治療が受けられるようになってきている(小児には適用がない)。その結果、除菌に成功して、胃がんの心配のない人生を送る人たちが増えている。

最終目標の胃がんの「完全撲滅」にも希望の光が差してきた。胃がんは撲滅可能な数少ないがんの一つである。その胃がんの死亡数は、長年、ダントツの1位だったが、近年、他の部位のがんが増えていく中で、

胃がんの発生数・年齢調整罹患率、死亡数・同死亡率はともに顕著に低減している。死亡数は5年間で約5000人減の約4万5000人で、肺・大腸がんに次ぐ第3位に後退した(2018年がん統計予測)。

胃がん撲滅の大原則は、「新たなピロリ菌感染者を減らすこと」である。1980年代にピロリ菌感染率の低かった世代が、その後も感染率を上げることなく、胃がん発生年齢に達したことがカギになる。その背景には、生活環境の急速な改善がある。劣悪な生活環境にある国々では、ピロリ菌感染率が高いことが知られている。

生活環境が整備された令和時代の主な感染経路は、乳幼児と母親の口から口へのルートと推測されている。そこで《新たな感染者》を生まないためには、成人後早期の除菌、あるいは新婚世代が子供を授かる前に、風疹などのチェックとともにピロリ菌感染の有無を調べ、陽性者は除菌するのが望ましいと考える。これは萎縮性胃炎の発生前除菌になり、個人的にも効果的な胃がん予防策となる。

世界のトップを走る日本のヘリコクター学は、その叡智を結集し、世界初の「胃がん撲滅国」を目指している。「胃がんの撲滅」は世代をまたぐ長期で壮大な医療行動が必要である。もし仮に、国が「胃がん撲滅法」といった法律を施行させ、本気で取り組めば、胃がん大国は一気に「胃がんの無い国」に大転換を遂げるであろう。

東海大学医学部
消化器内科学教授

◆新連載 漢方が胃を切った人を救う①

渡辺賢治 慶應義塾大学医学部漢方医学センター客員教授

『漢方を語る』



聞き手 アルファ・クラブ編集部

◆少林寺拳法―東洋思想― 漢方へと関心が広がり

編集部 企画「漢方が胃を切った人を救う」の創案者・故北島政樹先生(元国際医療福祉大学副理事長・名誉学長/元本紙顧問医師)が急逝され、渡辺先生もショックを受けられたのではないのでしょうか。

渡辺 漢方の大きな後ろ盾を失い、心に大きな穴があいた感じ。生前のご指導に報いるためにも良い仕事をしていきたいと思っています。

編集部 この「漢方企画」を渡辺先生のご指導のもとに、充実したものになりたいと考えています。まず先生が漢方医を目指された動機を伺います。

渡辺 その歴史は、4種類のエキス剤が薬価収載され、保険診療に導入された1967年に始まります。現在、約150種のエキス剤が健康保険で使えます。エキス剤は煎じた生薬の薬液を加熱し、温風で乾燥させる、スプレイドライ方式で製造します。元が煎じ薬ですから、お湯に溶かして服用すると効果も高まります。ちなみに「〇〇湯」は煎じ薬、「〇〇散」は粉薬、「〇〇丸」は粉薬を固めたものが本来の剤形です。

患者の救済のために 東西の医学を駆使する

編集部 エキス剤の現代医療の中での位置付けは?

渡辺 今や、医師の8割以上が、漢方薬を使用する時代ですが、その多くは西洋薬と併用され、様々な病気の治療に優れた効果を発揮します。本紙7月号の随筆欄で、北島先生が「術後の腸閉塞にエキス剤の大建中湯を併用したら予想を大幅に超える著効が得られた」との体験を披露されていますが、東西医療融合の成功例の一つでしょう。漢方薬の併用により、抗がん

渡辺 中学時代に少林寺拳法の修練を重ねるうちに、東洋思想―漢方へと関心が広がり、大学受験の前から医学部卒業後すぐに漢方を専攻することに決まりました。しかし、慶應義塾大学医学部入学直後に出会った漢方の大家・大塚恭男先生から、「まず西洋医学をしっかり学びなさい」と言われ、進路を変更しました。

国内では内科学と免疫学を、米留学では遺伝学を学びました。1995年に、ようやく大塚先生に弟子入りを許され、北里研究所東洋医学総合研究所に入所し、煎じ薬(生薬)による伝統漢方の診療と研究に打ち込みました。体全体を診る伝統漢方に関わり始め、奥の深さに、

剤の副作用の神経障害・下痢・口内炎などが和らぎ、がん治療が促進されます。人間の生命活動全体のバランスを整える特有の働きが、全身性の代謝性疾患、慢性疾患、種々の機能障害や「未病」、「フレイル」などを上手くコントロールします。風邪、便秘、冷え症、こむら返りなどは、漢方が得意とする分野です。

編集部 漢方は西洋医学と融合して現代の医療に貢献しているということですね。

渡辺 その通りです。日本は一つの医師免許で、東西の医療が実践できます。西洋医学が東洋医学かを問う時代ではなく、患者さんを中心に両者を駆使する医療が標準になっています。

編集部 エキス剤は西洋医学流のEBM(科学的根拠に基づく医療)という課題に直面しています。日本の医療制度は有効性と安全性が科学的に証明された診療を基本に成り立っているからです。

渡辺 現在、薬剤の有効性と安全性の証明に、無作為比較試験(RCT)が行われています。極めて厳格な条件のもとで、偽薬(プラセボ)投与群を対照と

ある種の感動を覚えました。

編集部 2001年に慶應義塾大学医学部漢方医学センターへ移り、主にエキス剤(漢方製剤)を使う保険診療に携わり、その後、環境情報学部教授兼神奈川県顧問として漢方の神髄である「未病」を始め、多くの研究に携わってこられました。

渡辺 総合的な診療が求められる現代にあって、2つの医学の融合によるキメ細かい診療を提供すべく、経験を活かし続けたと考えています。

漢方は日本で独自の 発展を遂げてきた

編集部 漢方の歴史は、ずいぶん長いですね。

渡辺 中国の漢代に集大成された医学体系が、5・6世紀頃に日本に渡来し、その後、日本で独自の発展を遂げてきました。「漢方」という言葉は江戸時代に日本で命名されました。中国の伝統医学は「中医学」と呼ばれ、長い歴史の中で漢方とは体系が異なるものになりました。

編集部 伝統的には、煎じ薬が主役でしたが、最近ではエキス剤が主流になってきましたね。

して、漢方薬の「真価」を比較評価します。試験で医師も患者もどれが実薬か偽薬かは知らされていない「二重盲検試験」が最も厳密な試験です。

エキス剤には味や匂いなどがあるため試験にはなじみ難いのですが、関係者の努力と技術の進歩で、臨床のエビデンス(根拠)は着実に集積されています。

IT(情報技術)で 漢方名人の技を再現する

編集部 今、取り組まれている「自動問診システム」の開発状況をお聞かせください。

渡辺 2008年から開発している自動問診システムは、タブレット端末に表示される「設問」(男性79問・女性87問)に患者さん自身が回答し、得られたデータを解析して、「虚実」、「寒熱」、「気血水」の状態をスコア化して表示します。「証」の予測は、現在、まだ人間がデータ解析した結果を表示する段階ですが、将来的には、AI(人工知能)による「証」と「処方」の予測を目指しています。

編集部 漢方名人の技をIT(情報技術)で再現するもので

渡辺 煎じ薬は細かい調整ができるのが利点です。一方、使用者にはエキス剤が便利です。

編集部 漢方の診断の基本は「証」といわれます。

渡辺 「証」は患者さんの体質や病状を示す物差しであり、最終診断とも言えます。したがって「証」が決まれば、治療方針(漢方薬の選択)も決まります。

編集部 「証」(診断)の決定には医療機器は使いませんね。

渡辺 はい。五感を最大限に働かせます。患者さんの体が発する情報を、「望診」(視覚)、「聞診」(聴覚と嗅覚)、問診(症状・既往歴・家族歴・体質などの聴取)、「切診」(触診)の「四診」によりとらえ、これに「虚実」、「寒熱」、「六病位」、「気血水」の漢方診断の要素を総合して「証」を導き出します。

編集部 「証」の説明によく風邪が例に引かれます。

渡辺 はい。同じ風邪の初期でも、患者さんの体力により、葛根湯の「証」か麻黄附子細辛湯の「証」かを鑑別します。

編集部 エキス漢方(エキス剤)は、何時から使えるようになったのでしょうか。

すね。

渡辺 漢方に熟達した医師のレベル100に対して、一致率は「虚実」では90%、「寒熱」では85%です。「気血水」では「もう一息」のレベルです。データは東京大学医科学研究所・同大工学部などと共同で解析しています。

編集部 自動問診システムで、何が得られますか。

渡辺 無作為比較試験では表現できない「リアルワールド」の根拠データが得られます。漢方の科学性が高まり、広い分野での様々な貢献が期待されます。自動問診システムは英語・ドイツ語など、日本語以外に6言語で利用可能です。今、ドイツでの使用が計画されています。世界が漢方を注視する中、その広がりが期待されています。

編集部 最後に一言お願いいたします。

渡辺 企画「漢方が胃を切った人を救う」には、漢方に詳しい第一線の先生方にご執筆をお願いしています。ご期待ください。

編集部 有難うございました。

予告/次号は「大建中湯」